



島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：鎌田陽子
(出雲市立神戸川小学校)

編集：広報部

VOL.49 2013.12.12 (時雨号)

発行責任者 安田あけみ (久手小学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 「事務職員の役割分担の明確化について望むこと」
(九州大学総務部長 松浦 晃幸)
- ▶ 浜田市における共同実施のとりくみ
- ▶ 県大会参加者の感想
- ▶ 人権コーナー
- ▶ 「松江教育事務所に勤務して」
- ▶ 事務歳時記
- ▶ 研修あれこれ (新任事務リーダー研修)
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



「事務職員の役割分担の明確化について望むこと」

九州大学総務部長 松浦 晃幸

現在、九州大学は、学生総数(学部・大学院生、留学生を含む)が約18,800人、教職員総数(非常勤的な職員を含む)7,800人が在籍する総合基幹大学であり、教育、研究、医療等に直接従事する教員等をサポートし、円滑な大学運営を行うために、約850人も事務職員が従事している。

それに対し、公立の小中学校の多くは、事務職員が一人のみ配置されている、いわゆる一人職場であり、さすがに全ての学校事務を一人で担うことは不可能である。円滑な学校運営体制を構築するためには、そもそも学校としてどこまでの業務を担うのか、また学校内の教職員の役割分担の明確化が必要である。

まず、学校としてどこまでの業務を担うのか、という点については、

① 家庭で担っていただきたいもの、② 地域で担っていただきたいもの、③ 教育委員会等行政機関で担っていただきたいもの、④ 民間等に委託していただきたいもの、⑤ 上記以外真に学校で担うものに、分類できると思われる。



① については、例えば、基本的な生活習慣の定着は、まずは家庭で身につけていただく必要がある。

② については、登下校時のあいさつ運動や交通安全指導、地域の伝統文化の継承等のための学校内での指導等の際に、教員の持ち得ないスキル等の発揮をお願いしたい。なお、これらの活動はコミュニティ・スクールや学校支援地域本部事業での取組として、地区をあげて対応していくことが重要である。

③ については、例えば、学校給食費の公会計化をはかることで、教職員が給食費の徴収事務等の負担を軽減することが可能となる。

④ については、経費負担は増加するが、警備やプールの管理委託などが考えられる。これら全てとは言わないが、まずは実現可能なものから取り組んでいただきたい。

また、学校内の教職員が真に担わなければならない業務については、校務分掌において教職員間での役割分担の明確化が必要である。教員は子供に対する指導や評価に関する業務に専念し、それ以外の業務については、基本的には事務職員が主体的に担ってもらいたいと考える。

そのために、「事務の共同実施」を組織的に進めながら、共同実施内の事務職員のマンパワーを有効に活用して、事務処理の合理化と事務職員のスキルアップを図っていただきたい。この事務の共同実施は、学校だけの判断では実施できないので、教育委員会が学校運営最適化のためのビジョンを描き、規則や人的整備も図りながら計画的に進める必要がある。学校内での業務分担を明確にし、さらに学校事務職員の役割を明確化し業務改善を実現していくことが、教員の子供と向き合う時間の確保につながるなど、子供の成長を支える重要なファクターであるということを是非教育委員会及び学校現場において認識してほしいと考えている。



教育活動の充実を支え、学校の教育力向上に寄与するために

浜田市における共同実施のとり組み

浜田市立三階小学校 主任 柴村 勉

これまでのとり組み

教科書事務説明会・転出入事務説明会の開催

転出入事務にかかる様式の電子化



共同実施のステップアップ!

連携・協力・協働

～ 他職とともに 管理職とともに 市教委とともに ～

業務・事務改善

資質向上

校務の省力化

教育活動の充実

教育力の向上



保存・閲覧が容易なファイリングシステム

学校ネットワークの有効活用



職種をこえた協働体制の構築



浜田市のめざす子ども像

きまりを守り、生活リズムを正し、たくましく生きぬく子

感性豊かで他を思いやり、人とのつながりを大切にする子

夢や希望にあふれ、学ぶ意欲をもち、ふるさとを愛する子



浜田市では平成20年度より中学校区を基本とした共同実施グループを組織し、教育力向上を目指した教育を支える基盤づくり、教育推進体制の構築のために、事務の共同実施のとりくみを進めてきました。

この間、グループごとの活動を中心にそれぞれの課題に応じたとりくみを進め、月1回のグループリーダー会や全体会、年1回の実践報告会を開催することで、グループ間の連携をとりながら、学校事務・業務の効率化や、事務職員自身の資質向上等の面において、一定の成果をあげてきました。



本年度は今までのとりくみより一歩踏み込み、「教育活動の充実を支え、浜田市全体の学校の教育力向上に寄与する」ことを目的としたとりくみを実施することとしました。

具体的には「文書分類の市内統一」と「学校ネットワークを利用した学校事務ポータルサイトの構築」です。

「文書分類の市内統一」

分類の見直しや文書の取り扱いについて共通実践で、他校の実践を市内の全ての学校に広げる形で導入しました。

「学校事務ポータルサイトの構築」

様式等の集約・提供のみでなく、教材や指導資料等も集約し、「教育活動の財産」として共有するしくみを構築します。



「職種をこえた協働体制の構築」

学校教育に関わる多くの者が連携する体制を整えるため、市教委の呼びかけによりワーキンググループを設置しました。（校長代表、教頭代表、教務主任代表、養護教諭代表、事務職員代表、市教委担当者）

業務の効果を高めるために加配事務職員が週に1日市教委で勤務し、担当者と連携・協力のもと、共同実施に係る業務の推進をしています。

とりくみの実現が「教育活動の充実を支える」ものとなり、全ての教職員がその効果を感じることのできるものになります。

これら教育活動の充実を支える基盤をつくり、「学校の教育力の向上」に寄与することで、「浜田市がめざす子ども像」の実現につなげます。

ICT活用事例を通して、目標設定から運用に至る問題解決のプロセスがよくわかりました。利用者ニーズの把握、費用対効果が十分に研究され、リーダーの強い指導力とメンバーの熱意が伝わる完成度の高いプレゼンでした。

(益田教育事務所 島田 満)

津和野町



「㊦なげよう! ㊦わたしから! ㊦のびのび!!」
情報共有によるマネジメント力の育成
~ ICT 機器を活用した実践を通して ~

「つわのスクールNET」は圧巻です。何が?ってこれを創りあげたこともさることながら、この運用を皆さんで継続的にしている労力に頭が下がる思いでした。日々の事務作業をもう一度振り返り、私にできることを見直させるいいきっかけになりました。

(雲南市立阿用小学校 岩崎 文子)

大田市の取組と実践は、自校の教職員や保護者はもちろん、関係団体や教委等をも巻き込み、協働して職務改善されている印象が強かったです。基本的に我々は一人職で自己流になりがちな日々の仕事も、共同実施や教委等と一緒に取り組むことで解決の糸口が近くなるだけでなく、自らをスキルアップさせるチャンスにもなるように感じました。この実践発表を松江に持って帰り、私自身も色々な場面で「つなぐ」をやっていこうと思います。

(松江市立本庄小学校 岸本 淳平)



「財務と情報を通した連携・協働による教育支援」
~「つなぐ」をキーワードに
新しい学校事務を創造しよう~

大田市

大田市の発表を聞いて、事務グループのこれからの活動について、様々な可能性を知ることができました。特に、児童生徒数の集計システムや、備品システムの作成など、学校間での情報の「つながり」を意識された実践が、今後自分たちの事務グループ活動に取り入れていきたいと思える内容でした。

また、事務職員が市教委で業務を行うという内容は、学校と地教委との連携を深めるためにも、とても有意義なものだと感じました。「事務グループ活動への加配」を利用した「新しい活動」を聞くことができ、とても大きな刺激を受けることができました。本当にありがとうございました。

(隠岐の島町立磯小学校 渡部 大吾)

10月31日開催
第44回



「創造しよう 新しい学校事務を! 教育課程づくりへの参画を通して」

島根県公立小中学校事務研究大会

in 江津市
(ミルキーウェイホール)



この4月、想定外の事務リーダー昇任と異動がありました。冒頭の「15年前の閉塞感・無力感は改善されたのか?」という問いかけや『自分のプレゼンス(今、ここに配置されている理由=存在意義)を問う』という言葉が重く心に残りました。

(益田市立小野中学校 田根 幸子)

講演会

『開かれた学校』時代における事務職員の役割
九州大学大学院人間環境学研究院
教授 元兼 正浩

講演の中で一番印象に残ったのは「学校は外部環境の変化を嫌う(100年前と同じ発想)」という言葉です。確かに私が小学生だった20数年前とほとんど環境が変わっていないように思います。それは何をすることも「お金(予算)がないとできない」と教職員や自分自身に言い聞かせてきた私(たち)にも原因があるようにも思います。4つ目のM(マネジメント)次第で変わることができると今この時代こそ私たち事務職員の能力を発揮できるチャンスだと改めて感じました。

(邑南町立阿須那小学校 天津 史子)

広島県より参加させていただき、ありがとうございました。今回、浜田地区と益田地区の研究発表で、共同実施(事務グループ)の取組についてお聴きすることができ、今後の私たちの共同実施に参考とさせていただきたい取組が多くありました。現在の共同実施は給与・旅費・サービス関係の定型業務に時間を取られ、教育支援や学校間、地域連携の調整役等の取組が出来にくい実態があります。島事研の実践を参考にさせていただき、今後の共同実施のあり方を考えていきたいと思いました。

広島県事研では、目指す事務職員像を「企画・提案のできる事務職員」「情報収集・発信のできる事務職員」「地域連携に貢献できる事務職員」「教育活動と財務をつなぐ事務職員」とし、学校経営スタッフとしての役割を担える事務職員を目指して取組を進めています。今後も隣の県として、お互いの取組に学び、刺激し合いながら高まり合っていけたらと思います。

(広島県 北広島町立大朝小学校 清水 加代子)

参加者の感想

人権 コーナー

『色鉛筆の色』

益田市立吉田南小学校 佐々井 貴子

私が幼い頃、クレヨンや色鉛筆を使って絵を描く時、人の顔は迷うことなく「肌色」を使っていました。現在ではその「肌色」という色の呼び名はありません。その理由としては、「人種差別に対する問題意識から、人種・個人差・日焼けの度合いによって肌の色は異なるのに、特定の色を肌色と決めるのはおかしい。」「人の肌の色を表すのに、肌色を使うだけで終わるのは考える力を損ない、創造する力が育たない。」というものでした。

そこで、大手文具メーカーが協議の結果として「肌色」という呼び名の使用を取りやめるようになり、2006年頃にはほぼ全てのクレヨン等からこの呼び名が消えたそうです。ちなみに今は、「うすだいだい」や「ペールオレンジ（うすいオレンジ）」という呼び名に改められているそうです。



私を驚かせたことがあります。それは、「肌色」だけを集めたクレヨンや色鉛筆があるということでした。せっかく「肌色」という呼び名をなくしたことの逆の流れが不思議に思えました。ドイツ製の十二色の「肌色」の色鉛筆は、私の意識にはない色がたくさん並んでいました。世界中で表現される「肌色」がこんなにもあること、そして、肌色はこの色だと決めつけていた自分に気づかされたと同時に、私が日々接する人々についても、職業や性別、年齢等で一つの色でしかみていない自分がいるのではないかと思いました。相手の人となりや個性は決して同じ色ではありません。良いも悪いもその人なりの色として、一つの色に決めつけることなく素直な心と眼で、できるだけ多くの色を見つけだすこと、また、人それぞれの違いを認めることの大切さを改めて感じました。

松江教育事務所に勤務して

松江教育事務所 石原 菜奈子

松江教育事務所に勤務してあっという間に約9か月が過ぎました。たくさんの方に助けていただきだんだんと仕事にも慣れ、これからは学校で働く皆さんのお役にもたてるよう頑張りたいと思っています。事務所での仕事は学校での業務を振り返ることも多く、たくさん事例に出会い、手引きや条例などを読み、成長できる環境でとてもありがたいことだなと感じています。

先日の島事研研究大会の元兼先生のお話で、学校事務職員はどんな存在か(メタファー隠喩)を考える時間がありました。私が学校にいるときは、専門店ではないけれどコンビニのようにいつでもだれでも便利に立ち寄ってもらえるような存在でいたいと思っていました。とりあえず事務職員に相談してみれば何かわかるかもしれないという安心感を、職員にだけでなく子どもたちや保護者さん地域の方にも持ってもらえればいいな、それが学校運営へ貢献できることと思っていました。

今、教育事務所で勤務することで私にできることの一つは、学校で働く皆さんが学校経営に必要な学校事務を、思う存分に行える時間をできるだけ増やすことではないかと考えています。そのためには、給与や旅費などにかかわる事務を必要最低限の力で行えるよう情報を収集発信し、事務の効率化適正化のお手伝いをする必要があるのではないかと思います。それぞれに経験年数も校種も規模も異なる中で、誰もが同じように事務処理をしていくことはなかなか難しいです。学校と教育事務所での両方の経験を活かし、教育事務所での仕事を工夫していきたいと思っています。そして一緒にスキルアップしていけるよう頑張りたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いします。

事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

青春の汗まっすぐに 部活かな

長い夏休みといえども、中学生は部活動がある。総体も終わって新しいキャプテンも決まり、これからは二年生が主体となって秋の新人戦へと向かっていく。純粋にスポーツに取組む姿には、青春の汗がまっすぐ光っている。



休暇明け 少しひかれる 後ろ髪

二学期が始まった。四十日間静かだった校舎にも、また子どもたちの声が帰ってくる。学校には、子どもの声がひびいてこそ本来の姿である。いつの世も、もう少し遊びたかった子どもには、少し後ろ髪をひかれる後悔もある。

黙々と行く遠足に 木の実降る

遠足は、もともと春に郊外へ出て野遊びをする風習から始まった。今年は登山遠足である。はじめは元気に歩いているが、やがて頂上近くになると無口の列が進んでいく。その背中には、時々ドングリや椎の実が落ちてくる。

島事研 世代交代 秋深し



久しぶりに島根県公立小中学校事務職員研究会の会合へ参加する。執行部の顔ぶれにはまだ懐かしいものがあるが、理事の顔ぶれはすっかり変わってしまった。いよいよ世代交代の波が押し寄せてきている。老兵は消え去るのみ！

研修 あれこれ



新任事務リーダー研修(猛暑)に参加して

雲南市立木次小学校 落部久美子

事務リーダー発令と同時に転勤。久しぶりの小学校で「小学校時間の波」に乗れないまま1学期が終了し、自分のはなはだしい適応力の低下にしょんぼりです。原因は年齢のせいなのか研鑽不足のためか、いずれにしても少しでも状況の改善を図りたい、「私たち学校事務職員に求められている役割は何？異動のたびに感じる自分の考えとのギャップを解消したい」という今更かつ永遠？のテーマを解決すべく、7月24日・25日の研修に出かけました。(果たして私に伸びしろがあるかはさておき)

研修では事務グループ活動の統括や初任者支援のありかた、組織の「能力」を高めるためのリーダーの役割等々を熱心に指導いただきました。(2日目は人数も多くホントウに暑かった)

やはり研修を受けることは課題解決のためのエネルギーとなりますね。職名や経験年数を問わずとても大切なことではないかと再認識しました。



原作：千葉ひろみ 画：大橋幸子

今号の巻頭ページは、昨年度の事務研究大会で講演していただきました松浦晃幸様(前 文科省初等中等局 学校運営支援企画官)にご寄稿いただきました。ありがとうございました。

【編集後記】カタログ通販で買った糊に不良品が混じっていた時のこと。メーカーにクレームのメールを送ると、とても丁寧なお詫びと、自分は温泉好きなので是非島根に行ってみたいという内容のメールが返ってきました。対応された方に妙に親近感が湧いて勝手に知り合いになったような感覚になり、次もこのメーカーの糊を注文しようという気になりました。何かをきっかけにつながりができる…そんな対応を私も心がけたいと思う今日この頃です。 Y.S

